

令和2年度
第3回留萌市公共施設整備検討会議
議事概要

- 日時／令和3年3月4日（木）16:00～17:25
- 場所／港西コミュニティセンター 集会室
- 出席者／委員 炭谷座長、向井副座長、大石委員、佐々木委員、西埜委員、藤田委員、
笠井委員、小沼委員、神部委員、坂本委員、堀口委員、高橋委員、
大和委員、遠藤委員、大舘委員、串橋委員、谷委員 ※順不同
- オブザーバー 赤坂部長[留萌振興局]、安田課長、小林課長
- 事務局 海野課長、林係長、高橋主任

1. 開会

2. 座長挨拶

－炭谷座長よりあいさつ。

3. 情報提供

(1) 道の駅るもい屋内交流・遊戯施設（仮称）について（資料1）

－事務局より、道の駅るもい屋内交流・遊戯施設（仮称）について（資料1）について説明。

－質疑・意見確認

（〇〇委員）

・遊具について流動的な形で運営をされると思うが、どれくらいの頻度、間隔で更新をするのか。

（事務局）

・遊具の耐用年数にもよるが、概ね10年を目途に更新を予定している。
・道営住宅については、現時点でエリアに含めることは検討していない。

（〇〇委員）

・遊具の選定に当たっては、子を持つ親から意見を貰ってほしい。作った後に「なんでこんなものを」と言われないようにしてほしい。

（〇〇委員）

・事業費、維持費に関して説明いただきたい。国に負担を求められるものはあるのか。

（事務局）

・維持費については、基本的には市の予算で対応することになる。
・人の配置は3人程度を想定している。
・1,500～1,800万円の維持管理費を想定している。
・アンテナショップやカフェ等それぞれの事業者から設置部分の維持費を負担いただく。
人件費以外の経費約800万円のうち500万円程度が市の負担となる。

（〇〇委員）

・維持管理費に関しても市民に分かるようにしていただきたい。

(〇〇委員)

- ・コンセプト3「留萌の「広告塔」として地域ブランドを発信します。」とあるが、建物自体を広告塔とするのか、内部の機能（アンテナショップ等）を広告塔とするのか。
- ・本施設をメインとするのか、管理棟と併せてメインとするのか。
- ・本施設と管理棟のトイレは2箇所とも道の駅のトイレという扱いとするのか。本施設に授乳室、オムツ替室があるが、夜間の利用はどうか。
- ・現在のアンテナショップはガラス張りで開放的だが、新施設はイメージ図を見ると3箇所しか窓が無い。雰囲気が変わってしまうのではないか。

(事務局)

- ・アンテナショップ含めて留萌の物を提供していくことを広告塔としている。
- ・管理棟との関係性については、管理棟は公園の管理棟ということで販売行為等が制限されているので、その部分を新施設で対応していく。
- ・新施設のトイレについては、24時間の開放はしない。24時間開放のトイレは管理棟のトイレのみとする（授乳室も同様）。夜のイベント実施時は本施設のトイレも使えるよう検討したい。
- ・窓については検討したが、建物の構造上、確保することが出来なかった。照明等で対応していきたい。

(〇〇委員)

- ・パブリックコメントでは、どのような意見が来ているのか。
- ・私のところにも意見が何件か来ているが、「メインは何か」というものが多かった。
- ・この後の運営について、施設を建設して終わりではない。どのようなイベントを誰に相談していくかなど、どのような運営方法をイメージされているのか。

(事務局)

- ・パブリックコメントについて、件数については集計中だが、50件程度いただいている。設置遊具について遊ばせる側のお母さん方の意見が多かった。この施設で何を遊ばせるのか基本的な考えが無いんじゃないかなど遊具については様々な意見があった。遊具については基本的に資料のとおり4つの視点で選定した。意見を聞きながら改良を図っていく。
- ・運営について、本施設をどう活かしていくのか、面でどう観光客を誘導していくのか、地元のお母さん方の視点が大切。公園については指定管理者が運営しているが、将来的には道の駅全体を含めた運営管理を検討したい。

(〇〇委員)

- ・アンテナショップは観光協会の管理なのか。

(事務局)

- ・お勝手屋萌道の駅店として引き続き運営する。

(〇〇委員)

- ・駅前にも店舗があるのに、それでは回遊性に結びつかないのではないか。

(事務局)

- ・道の駅には、多くのお客様が車・バスで来られている。留萌ならではの物を買いたいというニーズがある。賑わい創出という観点で、引き続き道の駅店として展開していただ

く。回遊性については、特に観光施設と飲食店を示しており、道の駅には本格的なレストランを設けずに市内の飲食店に誘導を図っていくこととしている。

(〇〇委員)

- ・チャレンジショップ4店は1年中開店ができない。中に入れることはできなかったのか。冬は道の駅の機能が下がってしまう。屋内交流・遊戯施設については、せっかく広大な芝生があるので、そちらに誘導するものがあったとしても良いのではないか。

(事務局)

- ・飲食機能を道の駅でどう展開するのだが、当初は出来るだけまちに流したいということで、テイクアウト品、軽食のみという取り扱いとした。また、レストラン等100%営利目的の施設については、市単独の財源となる。当初、飲食を提供していただけるような事業所の声も挙がってきていなかったこともあり、公的にできるところで遊戯施設としたところである。道の駅に来られる方々が、ショップを求めていることも十分理解している。屋根付きの物販棟の必要性も検討している。

(〇〇委員)

- ・民間からの収益で費用を回収できるところは回収すべき。新たな公共施設が出来た場合には、そこを町の中心として呼び込まなければならないのではないか。

(2) 副港地区について (資料2)

一事務局より、副港地区について(資料2)について説明。

(〇〇委員)

- ・これだけの広い土地を活用しない理由が分からない。公園や競技場を作ることは可能か。矢板が腐食しているとのことだが、そのままにしておいて大丈夫なのか。地盤が弱い、高低差があるというのは工事の仕方で対応できるのでは。基礎工事の必要のない利用の仕方は出来ないのか。

(事務局)

- ・現状の安全性は確認しているが、開発を進めるときには対策が必要となる。町場との緩衝ゾーンとなっており、港湾計画にて親水緑地として設定している。公園としては活用可能。公共施設の立地誘導としては、経費は掛かるが不可能ではない。基礎撤去しないままの活用は難しい。

(〇〇委員)

- ・これだけの費用を掛けて整備する必要があるのか。将来の子供たちに負担を残さないよう、なるべくお金のかからない方法を検討すべき。公共施設を考えるときには、不必要なところは除いていくことが大切ではないか。

(〇〇委員)

- ・留萌市は広い土地が無いということで苦労している。ここを使う考えが無いのはおかしいと思う。

(〇〇委員)

- ・選定に関して、不必要なものはなるべくカットすることが大事。社人研によると2040年には人口が1万人を切り、高齢者が50%弱となり、負担が大きくなる。どのように経費を削っていくか。先を見据えて考えていく必要がある。

4. 全体協議

―事務局より、新たな公共施設検討市民ワークショップ（案）について（資料 3）について説明。

（〇〇委員）

- ・ワークショップの講師として検討している小篠先生には、これまでの協議過程や検討状況については話をしているのか。小篠先生の研究室での情報提供等はあるのか。

（事務局）

- ・リモート打合せにより、これまでの検討会議の経過については説明している。市の考えや立地場所等について様々なご意見をいただいていることも説明し、理解していただいている。何点か整理した方が良い部分についてご指摘いただいている。来年度以降も監修いただけるような形を考えている。

（〇〇委員）

- ・整理した方が良い点とはどのようなことか。

（事務局）

- ・会議の前提として社会教育施設を建て替えるとしていたが、なぜ建て替える必要があるのかということをもう少し掘り下げたほうが良いということ。単に建て替えるだけではダメで、今後どのような社会教育を進めていこうとしているのか、そのために必要な施設はどのようなものなのかということ。これからの留萌のまちを考える上で、かつての賑わいが戻るというのは難しいが、かつての賑わいの復活を目指すのか、それともスケールにあった施設を検討するのか。立地場所についてまちの中心は、地図上のまちの中心ではなく、どのような姿で、どのようなまちづくりを目指すのかということで中心を決めていく必要があるのではないか。

（〇〇委員）

- ・委員が中心となってワークショップを進めていくとなると、これまでの2回の検討会議の中で何が統一的な課題整理が出来たのか、いまいち自信が持てない。いまの状態で開催しても一般の参加者と同じような感覚で議論することになってしまう。もう少しテーマの絞り込みについて検討会議の中で詰めてから望むべきではないかと思う。室蘭への視察も中止となっており、各委員が集めた情報を持ち合って協議し、ワークショップの狙いをもっと詰めてから開催した方が良いのではないか。

（〇〇委員）

- ・知識として公共施設の考え方を市民の方にも聞いてもらいたい。
- ・テーマは検討会議で決めたい。多くの方に参加していただきたいため、場合によっては大ホールでの開催も考えてはどうか。
- ・市民に公共施設の必要性、社会教育で何をするのか、必要性を知ってほしい。現時点では、講演会の方が良いのではないか。

（〇〇委員）

- ・小篠先生に指摘された事項は検討会議の委員にも当てはまると思うので、委員も含めて勉強する良い機会になると思う。
- ・興味を持ってくれた方がこういった機会を設けることでより活気づいていくと、ワーク

ワークショップでも活気ある議論に結びつくと思う。

- ・いままでの検討会議では、事務局からの説明と委員の知識だけでの議論であったため、先生の話聞いて学ぶ機会が必要だと思う。

(〇〇委員)

- ・委員にとっても知識的なところは必要である。市民に興味を持ってもらうということで、ここにいる委員からも声を掛け合って多くの方に参加していただきたい。

(事務局)

- ・小篠先生は当日午後イチに留萌に入ってくるので、検討会議委員と話し合いの場を設定することもできる。
- ・ワークショップについては来年度改めて開催することとし、市民を含めた勉強会（講演会）ということで設定する。

(炭谷座長)

- ・令和3年度は先生の話聞いた上で、ワークショップやアンケートを実施していきたい。
- ・大事なのはいかに市民に施設のことを理解されているかということ。
- ・効果的な手法について、委員、事務局と相談しながら進めていきたい。

(事務局)

- ・JR 2月2日7回目の沿線自治体会議を開催した。
- ・会議の目的

5. その他

(〇〇委員)

- ・駅前周辺地区での整備を検討するとなれば、JR留萌線の廃止後のJR用地の問題が関係してくる。沿線4市町の協議状況について情報提供いただきたい。

(事務局)

- ・2月2日に開催した7回目の沿線自治体会議の内容について説明。

6. 閉会